

エアパックの取付け方-取扱Q & A

はじめに エアパックのカバーテープ(旧 取付け用フィルム)の役割は、人体に取付けた際は**仮の皮膚**と考えてください。

したがって、皮膚の内側にエアパックを埋め込んで測定するイメージです。これにより、ズレによるせん断力の影響も測定値に表れます。カバーテープの周囲をしっかりと貼り、特に衣服の着脱や体圧測定などで、強いせん断力が予想される時は、はがれないよう工夫して付けてください。**はがれた場合は、エアパックの故障に繋がります。**

取り付け方 07/7までの四角い取付フィルムによる取付け時より、シワなどの凹凸が少なくなり精度良い測定が可能となりました。

①カバーテープで付ける場合 エアパック形状: $\phi 15$ 、 $\phi 20$ 、 $\phi 25$ 、 $\phi 30$ など

準備

台紙に切れ目
カバーテープ
エアパック

取付フィルムが着いたエアパックは、

- ①エアを抜く (一番下の行を参照)
- ②取付フィルムと小さい両面テープを慎重にはがす
- ③ペンで中央に印を着ける

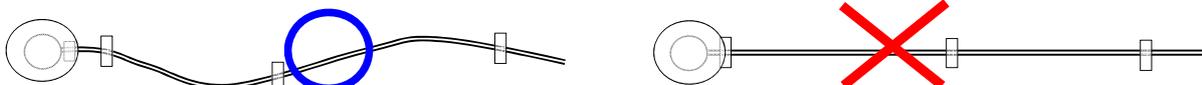
↑ エアパックの中央に印が無い場合、ペンで印を着ける

《カバーテープ/2種》

- ①標準: $\phi 15$ $\phi 20$ $\phi 25$ 用...AMI3037-PTS
- ②青: $\phi 30$ $\phi 25$ 用...AMI3037-PTB

各200枚 1組 ¥30,000 (5%税込¥31,500)

●チューブの配線は、皮膚の伸びや関節の曲げなどで、突っ張らないように余裕を持った配線を行って下さい。



事前に、表面の水・脂分を拭取ってください

- カバーテープで圧迫が多少(0.1~1kPa程度)掛かる方が、たわみ無くエアパックの保護に繋がります。(取付時の圧迫より、測定値の方が高い場合はその値で読み取って下さい。測定値が取付時の圧を越えると同等(許容誤差内)に近付きます。《水圧校正にて確認できます》)
- 変形や伸縮が大きい部位は、一番突っ張りが掛かる状態でカバーテープを貼って下さい。(例:ひじなどは曲げた状態で貼る)

②両面テープで付ける場合 エアパック形状: I、T、G、指用 など

●エアパックにカバーテープを使用しないタイプは(I、T、G、指用 など)ズレの大きい箇所では壊れ(破れ)易いので、ご了承願います。

準備

指用
粘着が強い布製
薄い紙製

両面テープを銀テープより、小さめに切る

ピンセットなどで銀テープ上に貼る

部位に貼り着け、テープでチューブを固定

エアパックにエア注入が上手くできない

- もう一度操作をゆっくり行って下さい。特殊でチューブを長くしたタイプは特にゆ〜っくり。
- ギヤの回転時、ピンの軸で止まってるか? 青にピンで回転した際、陰圧で動いてないか?
- エアパックがエア漏れしてないかプレス試験などで確認。

* 両面テープをはがす際は、エアパックのエアを抜き取り、銀テープの端を指先でしっかりと押さえながらはがして下さい

エアパックの破壊の確認と対応

- プレス試験を3回行うことで、数値が段々下がってきた場合エア漏れと判断できます。
- エア漏れ箇所の確認.....洗面器などの容器に水を入れ、エア注入されたエアパック全体(ジョイントごと)を沈め、親指など柔らかいもので、水中内でエアパック先端をつぶす。
* 本体への接続は、ジョイント部の水分を拭き取ってから接続して下さい(故障原因)
気泡が出た箇所が漏れている→修理に出して下さい(注意箇所: エアパック部、2重チューブの段部、ジョイント部)
- たびたび壊れる(原因として)
 - ①カバーテープを使用しているか? → 極力使用して下さい(使用しない場合は壊れ易いので工夫して)
 - ②取付ける際、カバーフィルムがたわみ過ぎ? → 多少圧迫が掛かる程度が良い(0.1~0.7kPa)
 - ③測定中・測定後、カバーテープがはがれる→粘着が強いテープ、幅広のテープに換える。また、貼付け面をアルコールで拭き取る。

エアパックの保管中、自然とエアが入り膨らんでる場合があります

原因が解りませんが、接続部が金属で室温の変化で熱膨脹・収縮によるのでは?

- エアシリンダでエアを次の手順で抜き取ってから、通常操作でエア封入を行って下さい。
()内番号は、取扱説明書の操作手順より
- エアの抜き方: (3)エアシリンダを短く → (4)エアパックとエアシリンダを接続 → エアシリンダのヘッドをいっぱい引く(長く) → (8)エアパックを外す

